

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



山梨県市川三郷町
が応援するふるさと名物

「和紙」の文化がつむぐ伝統産業
「市川和紙」と六郷「甲州手彫印章」





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

山梨県 市川三郷町

地域のプロフィール ～ 自然・文化・産業 ～

甲府盆地の南西、南アルプスを源流とする釜無川と、秩父山系を源流とする笛吹川が合流し、富士川となる左岸に市川三郷町は位置します。曾根丘陵及び丘陵性山地と富士川に囲まれた平坦地と中山間地が広がり、農用地の占める割合が高く、面積は75.18平方kmで、山梨県の面積の1.7%を占めています。

市川三郷町は、平成17年10月に三珠町・市川大門町・六郷町が合併し誕生しました。四季折々の自然が楽しめる四尾連湖や芦川溪谷、歌舞伎文化公園、ぼたん回廊や桜の名所、花火、和紙、はんこなどの地場産業、大塚にんじんやとうもろこしの「甘々娘」に代表される農産物、市川の百祭りなど、町には誇れる資源がたくさんあります。

峡南地域の経済と文化の中心地として栄え、古の歴史と伝統産業が息づく町。大切に受け継がれ発展してきた「市川和紙」は千年の歴史を有し、障子紙の生産量は現在でも日本一を誇ります。

地域に根付き、受け継がれてきた和紙の文化は「書」に親しみ「篆刻」といった文字による文化とも結ばれます。「ハンコの里」として知られる六郷地区もまた、日本一を誇るハンコの産地となっています。



— 主な地域資源 —

◆ 千年の歴史を継ぐ「市川和紙」

市川大門地区は千年の歴史を持つ和紙の伝統と製紙産業を基盤に発展を遂げてきました。古くから紙漉が行なわれていたことは、平安初期に創建され、延暦23年（804年）平塩の岡にあった天台宗平塩山「白雲寺」の旧記に「平塩に九戸、弓削に七戸の紙漉あり」と記され、また甲斐源氏の祖、源義清が市川へ紙工「甚左衛門」を伴い優れた技術を伝授したとも伝えられています。武田氏時代には、武田家の御用紙として用いられ、美人の素肌のように美しいことから「肌吉紙」と呼ばれ、職人は肌吉衆として手厚く保護されました。徳川家の時代になっても御用紙として幕府に献上され、隆盛を極めた市川御用紙漉きは家内工業的からやがて近代的な製紙産業へととなり、昭和30年代には機械抄きも導入されます。和紙のもつ美しさ、強靭さを増すとともに民芸としての豊富なデザイン・新鮮なアイデアが加えられ、障子紙やお札、包材、書道半紙など多種多様な紙が生産されるようになります。中でも障子紙は全国一の産地となり、現在でも生産量日本一を誇ります。

職人たちが受け継いできた伝統の技と心意気により、千年の歴史を積み重ねてきた「市川和紙」。手漉き和紙からはじまり、多種多様に変化を遂げながら一大産業として発展し、今も日本の和紙文化を支えています。



千年続く伝統の技法 市川手漉き和紙



障子紙生産量日本一を誇る製紙産業（機械抄き）

— 主な地域資源 —

◆ 「六郷印章の里」 「甲州手彫印章」

一大産業として発展した市川和紙はまた、町に書の文化を根付かせます。多くの子弟が書道を学び、著名な書家や篆刻家を輩出してきました。市川三郷町には伝統産業とともに書や篆刻といった文字によって結ばれた奥深い文化が根付いています。

日本一の「ハンコの里」として知られる六郷地区。多くの篆刻家を輩出し、この地で職人たちによって受け継がれてきた「甲州手彫印章」は職人の完全なる手作業によって生み出されます。それは職人の卓越した技術と独自性、そしてそれぞれの個性が光るまさに芸術品。二つとして同じものはありません。

ここ六郷における印章の歴史は明治の始め甲州の水晶と、水晶加工技術の振興とともに起こります。先人たちは全国を行商して印章の重要性、重宝さ、生活の必需品である事を説き販路を開拓してきました。一方、技術の習得にも長い年月を要し、幾多の修業を経て卓越した技術を習得し印章産業を支えてきました。六郷の印章は全国の生産量50%、県内生産の70%を占めるまでに至り、日本一のハンコの里となりました。

手彫印章の作業工程



字入れ 彫刻文字の配置・配分をし、印面に直接、左文字を書く



荒彫り 印面を起底刀(きていとう)で彫り進めます。



仕上げ 判差しという仕上げけで字の形を整えます。



—ふるさと名物の内容—

【市川和紙の関連商品群】

古くは平安の頃までさかのぼり、いくつもの時代を乗り越え技術革新を重ね市川和紙は発展し多種多様な紙を開発してきました。伝統的な障子紙やお札、書道半紙、包材をはじめ、近年ではバッグ、小物ケース、サイフ、スリッパなどモダン和風のインテリア雑貨としても市川和紙は使われています。なかでも障子紙は全国一の産地、現在でも生産量日本一を誇ります。

現在、町内には、7軒の機械抄き工場と1軒の手漉き工房があります。町内で唯一手漉き和紙を製造している豊川秀雄さんはこの手漉き工房の六代目。千年続く伝統の技法で今も和紙を漉いています。多い日には一日400枚漉きますが、全て風合いが異なり、それぞれに趣があると話します。

市川三郷町では毎年、小学6年生が卒業証書を自らの手で漉いていて、豊川さんが伝統の手技を見せながら直接指導しています。また、ぶどうのつるや地元名産の大塚にんじん、とうもろこしの繊維を入れ込んだ和紙を開発するなど和紙の新たな可能性、魅力の発見に力を注いでいます。



市川和紙関連商品



卒業証書を漉く小学生



ぶどうのつるやとうもろこし
大塚にんじんの繊維を漉きこんだ和紙



手漉き工房 豊川製紙
六代目 豊川秀雄さん

-ふるさと名物の内容-

【印章(甲州手彫印章)の関連商品群】

「ハンコの里」六郷地区で明治期から職人たちによって受け継がれてきた甲州手彫印章は、起底刀という手彫り専用の道具を使って一文字一文字丁寧に彫り上げていきます。字入れ、荒彫り、仕上げと続く作業工程は、長い年月、幾多の修業を経て身に着けた職人の技を必要とし、職人それぞれの個性が光る芸術品です。

印材は、水牛、象牙などの伝統的なもののほか、現在ではむらおこし事業の一環として開発された新しい印材「オノオレカンバ」も使用しています。

印種も一般的な、実印、銀行印、認印、落款印等の他、手彫印章ならではの芸術性や独自性を打ち出した新たな製品づくりに取り組んでいます。名刺に押すのにぴったりな小さなサイズの名刺印はそのひとつ。機械刷りの文字が並ぶ名刺に手彫りの味わいのある印を押すだけで、名刺の印象はあたたかみのあるものになり変わります。まさに手彫りならではの奥深さを感じさせてくれる印です。

六郷地区にはまた、印章に関わる様々な産業が根付いています。印刻の工房はもちろん、印材問屋、ケース製作業者、販売業者、表札業者など印章に関連する全ての商品がそろいます。六郷がハンコの里と言われる所以がそこにあります。



石類



角類



牙類



ゴム印



木・竹類



甲州手彫印章



名刺印





ケース



表札

－市川三郷町の取り組み－

【 伝統産業と文化を伝え受け継ぐ ～ ふるさとまつりの実施 ～ 】

～ ふるさと四季祭り～	開催日	開催場所	支援内容	
ふるさと夏まつり 「神明の花火大会」	8月7日	三郡橋下流 笛吹川河畔	市川三郷町は花火の町としても全国的に名が知られています。武田氏時代の狼煙がルーツと言われ江戸時代には日本三大花火の一つに数えられました。そんな市川花火の生産にも市川和紙は欠かせません。現在も続く「神明の花火大会」の名も、紙を漉く技術を市川の地に伝え、暮らしを豊かにしてくれた「甚左衛門」を祀る神明社（紙の神様を祀る社）に由来しています。	
ふるさと秋まつり 「はんこ日本一六郷の里 秋まつり」	11月上旬	六郷小学校 グラウンド	お祭りでは、全日本逆さ文字入れ大会やハンコ早押し大会、また無料の印章篆刻体験など印章にちなんだイベントを開催し、ハンコを広くPRするとともに、「ハンコの里」の地域づくりを推進しています。	

－市川三郷町の取り組み－

【各種団体への補助・支援】

・「市川和紙工業協同組合」

市川和紙の振興を図ることを目的に様々な事業に取り組んでいます。特に生産量日本一を誇る障子紙を中心に市場ニーズの情報収集と分析・新製品の開発、販路拡大など全国シェアの維持に努めています。町ではこうした活動に対し補助金等の交付を行い地場産業の核である製紙業の更なる発展を支援していきます。

・「和紙技術研究会」

製紙技術向上の為の研究会や技術講習会の開催など伝統産業と技術の継承に取り組んでいます。町ではこうした活動に対し補助金等の交付を行い、市川和紙振興の支援を行っています。

・「六郷印章業連合組合」

印章業を振興し未来に継承していく活動を行っています。印章に関連した業種が一体となり市場開拓事業や各種講習会といった研修事業、販路開拓事業、印章供養祭等の開催、イベントへの参加、篆刻体験の実施などを積極的に展開しています。町では「市川三郷町印章購入助成金交付制度」の実施、補助金の交付など官民一体で地場産業の発展支援を行っています。



小学校児童による篆刻体験



毎年10月1日に行われる印章供養祭(右)

— 市川三郷町の取り組み —

【その他の支援】

・市川三郷町印章購入助成金制度

印章に関わる事業所の活性化と伝統産業である印章を地域住民に深く理解してもらうことを目的として、印章購入に要した費用の2分の1、1万円を上限として助成します。



・印章資料館（地場産業会館）

「ハンコの里」ならではの資料館。館内には明治時代初期から印章彫刻に使用した道具類、先人や現代作家の数百点に及ぶ貴重な篆刻作品・寄贈品等を展示しています。また、世界に7部しか現存していない2000年から2500年前の中国の著名な印を集めた印譜集「十鐘山房印挙」が展示されており、書家・篆刻家の高い関心を集めています。



印章資料館展示室



十鐘山房印挙

・製紙試験場

町内製紙工業の振興発展を図ることを目的に設置された「製紙試験場」。全国的にもあまり例のない珍しい研究施設です。製紙の材料や資質、製造工程などの試験・検査・研究を行い、改良発達の提案や新製品開発への助言、製紙製品の用途の開拓・相談などを行い製紙業発展の支援をしています。



製紙試験場



試験室